

# 都市部の祭りが抱える課題について

明治大学経営学部公共経営学科

1740200252

4年16組32番

柳下 祐徳

# 目次

はじめに .....	3
第1章 祭りについて .....	3
1-1 祭りの役割 .....	3
1-2 祭りの現状 .....	5
1-3 祭りが消滅することによるデメリット .....	7
第2章 課題の分析 .....	7
第3章 人手不足への対策の事例 .....	11
3-1 地域住民の参加を促した事例 .....	12
3-2 地域外の担い手を集める事例(企業による取り組み) .....	13
3-2 地域外の担い手を集める事例(非営利組織による取り組み) .....	14
第4章 考えられる対策の形 .....	14
おわりに .....	15
参考資料 .....	15
調査協力 .....	17

## はじめに

日本の祭りは減少傾向にあるといわれている。2016年の調査では、無形民俗文化財に登録されている祭りや踊りなどの伝統行事が、20県で計60件も休廃止されていることが示されている<sup>1</sup>。また、群馬県のみデータではあるが、2022年度において伝統文化として登録されている857件の民族芸能のうち、危機及び中断中、廃絶と回答した件数が334件あり、全体の39%を占めている<sup>2</sup>。こういった祭りの衰退は地方の町村において顕著であり、その原因は過疎及び少子化による人手不足である。この状況に対して、過疎地域での祭りについての先行研究は多くある。

しかし、過疎とは関係ない都市部の人口密集地でも中止に至った事例があり、都市部においても祭りの開催に困難があることが分かった。そこで、本論文では東京都杉並区西荻窪の事例をもとに都市部の祭り開催においてどのような課題があるのかを分析し、継続的開催にはどのような対策が有効であるかを考察していく。

## 第1章 祭りについて

### 1-1 祭りの役割

祭りの役割は大きく3つに分けられる。

1つ目は信仰的役割である。祭りの語源は「祀る」であり、神に対する信仰を表す儀式として行われてきた。日本では八百万の神という言葉がある通り、祖先の霊に始まり、海や山、川といった自然環境からトイレや台所、日用道具などの人工物、お米の一粒一粒にすら神が宿ると信じられてきた。それに伴い多くの祭りが存在しており、

---

<sup>1</sup> 無形民俗文化財の伝統行事、20県で60件休廃止 - 日本経済新聞

[https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG03H2D\\_T00C17A1000000/\(2024/1/25](https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG03H2D_T00C17A1000000/(2024/1/25) アクセス)

<sup>2</sup> 令和4年度伝統文化継承事業 群馬県伝統文化調査報告書

[https://www1.gunmabunkazigyodan.or.jp/kankobutsu\(2024/1/25](https://www1.gunmabunkazigyodan.or.jp/kankobutsu(2024/1/25) アクセス)

その数は 30 万以上と言われている。外務省の外国人向け雑誌「にっぽにか」では、祭りを祈る内容ごとに 8 種類に分類できると紹介している。それによると「神社に伝わる祭り」「豊作や豊漁を祈って感謝する祭り」「健康と安全、子孫繁栄を祈る祭り」「歴史上の人物をたたえる祭り」「平和な世を願う祭り」「先祖の霊を供養する祭り」「地域の伝統的な行事や芸能を受け継ぐ祭り」「街を元気にする新しい祭り」の 8 つである。現代では科学の発展によって祈りと現実の現象について因果関係を見出すことは無くなったが、形式として祭りは継続されており、その目的は後述の 2 つの役割へと変わっていった。

2 つ目はコミュニティ形成の役割である。信仰的役割を果たすために人々が思いを同じにし、協力して祭りという儀式を作り上げていく中で、つながりを強化していく役割が強まっていった。祭礼と地域コミュニティに関する研究は多くある。前村ほか(2013)によれば、祭りへの参加意欲が高ければ、地域に対する関心や協力意識、誇りが強くなることを示しており、地域コミュニティの基盤形成において祭りが重要な役割を果たしていることを明らかにしている。地域コミュニティの存続は、防犯や防災といった生活の安全に関係してくるため、この意味から祭りの持つ役割は重要だと考える。

3 つめは経済的役割である。祭りは人が集まる特性上経済の動きも活発になる。柳田(1969)によると、神のための祭りではなく、「見世物」として祭りを開催することで外部からの客を呼び込み、金銭を落としてもらうことを目的としたイベントとしての祭りが増えていることを指摘した。日本経済新聞によると、青森県のねぶた祭りは 6 日間の期間中で県の GDP の 1%弱を稼いでおり、観光資源として大きな役割を果たしている<sup>3</sup>。そのため過疎地域における地域おこしのコンテンツとしての役割も期待されている。また、企業が協賛をしたり、従業員が祭り運営に関わったりすることで住民にとって地域商店を知るきっかけとなり、祭り後において地元商店の長期的な売り上げ増加が期待できる。

これらの役割を踏まえて、祭りには高い社会課題解決能力があることが指摘されている。

---

<sup>3</sup> ねぶた祭、青森県 GDP の 1%稼ぐ 全国の祭りの経済効果 5300 億円 - 日本経済新聞  
[https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCA14CO50U2A410C2000000/\(2024/1/25](https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCA14CO50U2A410C2000000/(2024/1/25) アクセス)

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングのレポートによると、大きく分けて 8 つの分野における社会課題に効果があることが示されている(図 1 参照)。



図 1：祭りの持つ社会課題解決能力（例）

(出典) 地域の祭りの社会課題解決能力に着目した地方創生の在り方

[https://www.murc.jp/library/column/sn\\_180501/](https://www.murc.jp/library/column/sn_180501/) (2024/1/25 アクセス)

「地域コミュニティ」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」、「子どもの社会参加」の 4 つの分野はコミュニティ形成の役割から、「観光」、「地域経済」については経済的役割から社会課題解決能力が期待されている。

また、祭りの参加することが住民にとって精神的にプラスの効果を発揮していることも示されている。楽天インサイト株式会社の祭りの実態調査 2019 調査報告書によると、地域に実際に参加した人において「私が暮らす地域は「豊か」である」「私が暮らす地域は「精神的・文化的」に豊かな地域である」という質問に対して「あてはまる」という回答が高くなることが分かっており、この 1 年で祭りに一度も行っていない人と比較してプラス 15%の有意差がある。

以上より祭りその目的を変化させながら地域社会においてなくてはならない役割を果たしている。

## 1-2 祭りの現状

コロナ禍において、多くの人が集まり三密を招く祭りは行政からの方針に従い開催を断念せざるを得ない状況であった。2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症に引き下げられたことによって祭り開催における障害は消えたように思える。祭り・イベント総合研究所が全国の祭り・イベント関係者に行った調査によると、「コロナ前と同様の内容・規模での通常開催を検討している」という回答は 64%、「コロナ以前よりも規模の

拡大を検討している」は8%、「通常開催とライブ配信を併用しての開催を検討している」は7%と前向きな意見が多く、「行事の一部を省くなど規模を縮小しての開催を検討している」という意見は13%にとどまった(図2参照)。しかし、実際の開催状況についての質問では慢性的な資金難や人手不足が課題として存在していることが示されている(図3参照)。また、実際に中止に至った事例における断念理由として「当日のボランティアスタッフの不足」が最も多い回答であったことから、人手不足が祭り開催における最大の課題だと分析できる(図4参照)。

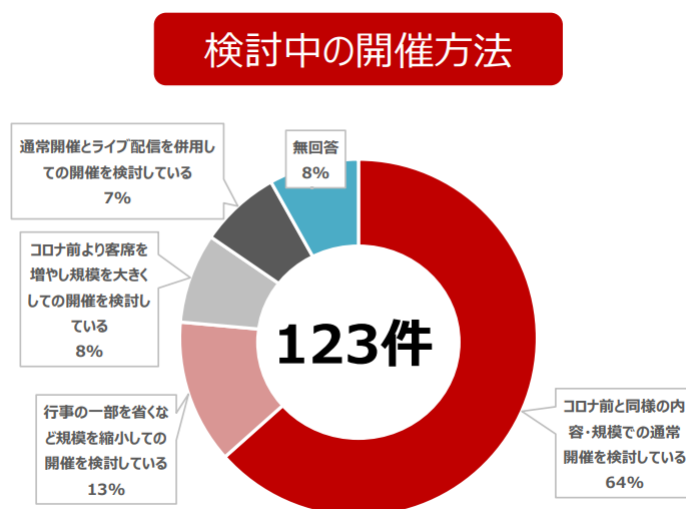


図2：検討中の開催方法

(出典) after コロナ時代における祭り・イベント関係者の意識・動向調

[https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/pdf/20230803\\_01\\_01.pdf](https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/pdf/20230803_01_01.pdf) (2024/1/25 アクセス)



図3：昨年までにおいて、祭りの開催断念理由・開催する上での課題  
(出典) 図2 同上

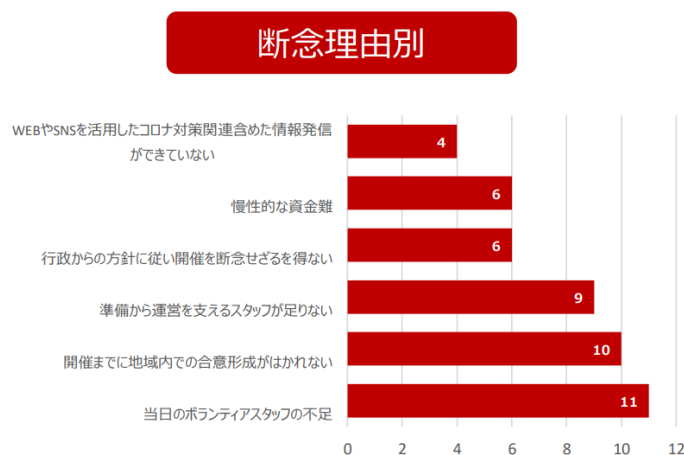


図4：2023年度における開催を断念した理由  
(出典) 図2 同上

### 1-3 祭りが消滅することによるデメリット

以上の課題によって祭りの開催が困難になると、さまざまな弊害が生じる可能性がある。1つ目は地域コミュニティの衰退である。前述したように祭りはコミュニティ形成の役割を担っており、祭りがなくなるということは社会的な交流の機会がなくなることに等しい。それによって地域社会の結束力が弱まることが考えられる。2つ目は地域経済に対する悪影響が考えられる。祭りは経済的役割も担っており、なくなることによって観光客の減少による観光業の衰退、地元商店の売り上げの減少が懸念される。3つ目は、付随する文化や伝統の喪失である。これによって地域社会において歴史的な価値が失われ、住民のアイデンティティが失われることになる。また、芸術面ではアーティストや文化団体が発表の場を失うことが考えられる。他にも単純に祭りを楽しいイベントと捉えていた人にとっては楽しみの一つがなくなり幸福感が減少するなど、多くの問題があるだろう。そのため、課題に即した対策の考案と実行が求められる。

## 第2章 課題の分析

都市部での祭り開催におけるボトルネックを明確にするため、実際に毎年夏に盆踊り大会を主催している東京都杉並区の西荻一番街商店会の役員の柳下匡弘氏にインタビューを行った(2010/10/22 実施)。

この商店街がある東京都杉並区西荻窪という地域は、JR 中央線の西荻窪駅があり、オフィス街というよりも住宅が多く立ち並ぶため人口密度は都内平均よりも高い。世帯構成は若い単身者が中心であり、高齢化は平均的な土地である。国税調査によると、杉並区の人口総数は平成 7 年以降増加傾向にあり、1995 年度の 51 万人から令和 2 年には 59 万人にまで増えている(図 1)。

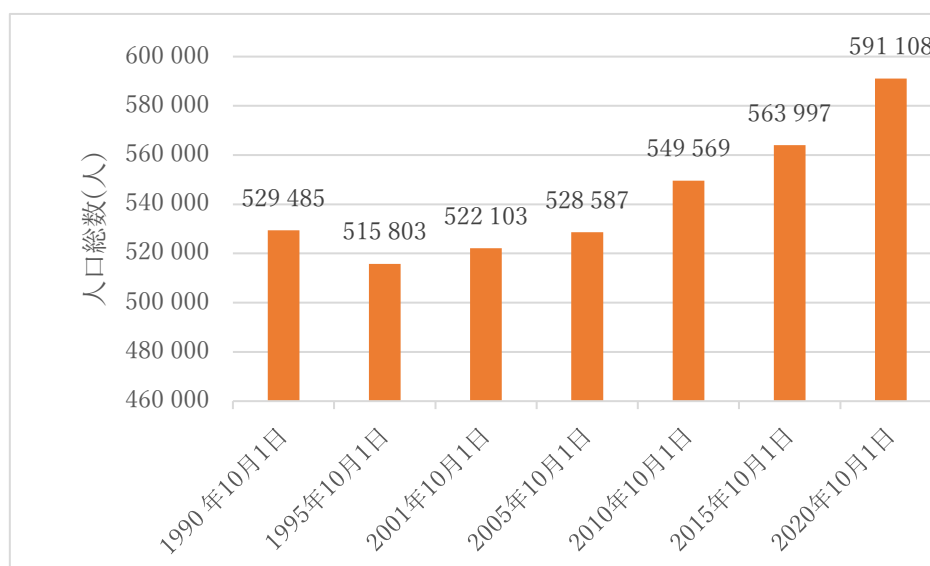


図 5 「杉並区 人口総数の推移」

(出典) 杉並区 世帯数及び人口の推移を基に作成

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/kusei/toukei/toukei/r04/1086678.html> (2024/1/25 アクセス)

西荻一番街商店会は西荻窪駅北口から徒歩 5 分にあり、東西に 600 メートルほど続く商店会である(図 6 参照)。1958 年に設立され、現在は約 60 店舗が加盟している。同商店会は例年夏に商店街内の公園にて盆踊り大会を主催しており、その盆踊り大会を対象にインタビューを行った。盆踊り大会は主に商店会役員の 6 名が主催者となった開催され、当日は各商店から合計 30 名ほどがスタッフとして運営に関わる。費用については商店会費の積み立に加え、区の助成制度を利用している。開催の目的は日頃から商店街を利用している近隣住民への感謝を示すことと、交流の機会を生み出すことであり営利目的ではない。スタッフはみなボランティアであり、費用を賄うだけの売り上げを目指している。2023 年度においては 8 月 2、3 日の 2 日間開催され、例年より当日のスタッフが不足していたことや、4 年ぶりの開催ということで多くの集客が予想されたことから 2 日間で計 10 人の大学生ボランティアを受け入れた。





図6：西荻一番街商店会周辺の地図  
(出典)杉並区商店街マップを基に作成

[https://www.city.suginami.tokyo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/070/973/r4s-yotengaimap.pdf](https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/070/973/r4s-yotengaimap.pdf) (2024/1/25 アクセス)

近隣にもコロナ禍以前は毎年秋祭りを開催している商店会(以後 A 商店会とする)が存在するが、2023 年度においては単独での開催を見送り、西荻一番街商店会の盆踊り大会に一部協力するという形に至った。このことから、人口や条例等の環境要因がほぼ同一の状況において、開催できた祭りと、開催できなかった祭りの比較ができると考えたため、西荻一番街商店会に対してインタビューを行った。

インタビューで聞いた内容は「祭り開催までの困難」、「開催できなかった A 商店会との違い」、「今後の開催における懸念点」の 3 点である。

祭り開催までの困難として、開催するかどうかの合意形成がスムーズに行われなかったことを挙げていた。来年への延期や、今後一切開催しないとといった後ろ向きの意見があり、その根拠として、本人の年齢や、担い手の不足が挙げられていた。

開催できなかった A 商店会との違いとしては、その商店会を構成する商店の数を挙げていた。商店会主催の祭りということで、その運営に関わる人手はその商店会に所属する商店の従業員が担ってきた。会場の準備や片付けのみならず、当日の屋台の運営も商店会のメンバーが務めていた。しかし、A 商店会はそもそもの商店の数が減っていた。祭りの中心的なイベント会場として使われていた八百屋はコロナ禍の 4 年間で閉店しており、30 近くあった商店の半数は住宅に建て替わっていた。そのため、人手不足に陥った A 商店会は祭り開催を断念したのだ。また、一番街商店会は当日の人手として、商店会員以外の大学

生の協力があつたことが挙げられる。筆者を含め、二日間で10人の大学生がボランティアとして屋台の運営に関わつた。最も人手が必要となる祭り当日にボランティアを集められたことが違つた。

今後の開催における懸念点としては、担い手の消滅を挙げていた。西荻一番街商店会には約60の商店が所属しているが、祭りなどのイベント運営に人手を出すような協力的な商店は古くから商店街で店を開いている10店未満である。商店街に店は構えるが、商店会自体には興味がなく、排他的な商店が多いと語っていた。そのため、古くからの商店のみでの開催を続けていけば、高齢化によって協力できる人が減り、開催が危ういと感じているようだ。

以上のことから、都市部においても、人手不足を理由に祭りの継続に課題を抱えていることが分かつた。その原因は、過疎地域のような根本的な人口減少ではなく、積極的な参加人口の減少である。人は住んでいるものの、祭りを主催する商店街の組合などに所属する商店が少なく、所属していても人手を出すといった負担の大きい協力体制をとる商店は少ない。また、住民の参加も少なく、ただ住んでいるのみの無関心な層が多い。よつて人はいるのに人手が足りない状況が起こつている。

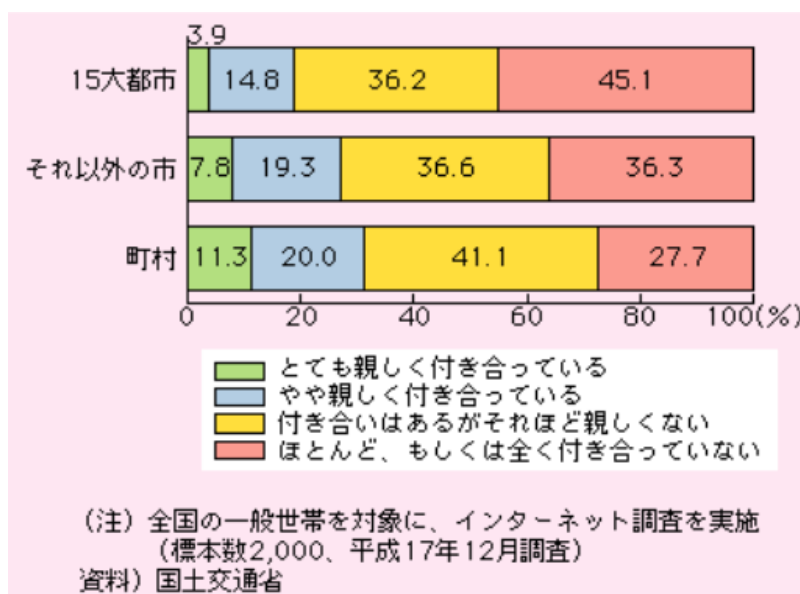


図2 地域の人々との付き合い

(出典) 国土交通省 都市部、地方部における地域コミュニティの衰退

<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html>

(2024/1/25 アクセス)

図2は、地域の人々との交流の度合いを国土交通省が調査した結果だ。「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」と答えた割合は、町村において27.7%だったのに対し、15

大都市においては 45.1%と大きく上回っており、町村よりも地域コミュニティの衰退が顕著であることが伺える。地域コミュニティの衰退には、昼間に地域にいないことによる関わりの希薄化が最も大きな原因である。農林漁業の第一次産業や自営業が減少していることから(図3)、都市部に通勤する勤め人が増え、住宅地と勤務地の切離しが進んだことが原因である。

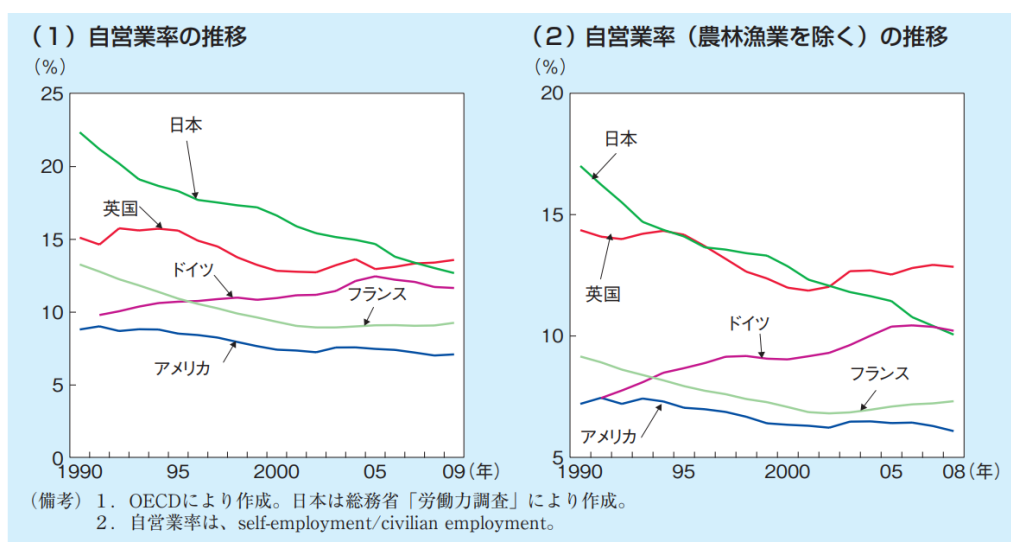


図3 自営業率の推移

(出典) 内閣府 自営業の衰退とその背景

[https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je11/pdf/p03012\\_1.pdf](https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je11/pdf/p03012_1.pdf) (2024/1/25 アクセス)

交流の機会が生まれにくいことから、地域のイベントに関わる機会が発生せず、ただそこに住んでいるだけの住民が多くなってしまっているのだ。

都市における関係の希薄化が指摘されていることから、西荻窪以外の人口密集地であっても祭り開催において地域交流の希薄化からの人手不足が起これると考えられる。

### 第3章 人手不足への対策の事例

第1章で祭りが消滅することのデメリットを述べたが、どのような対策が有効なのだろうか。

祭りの人手不足対策としては公営化や広域化が一般的である。しかし、これは人口減少が人手不足の要因となっている過疎地域での解決策である。地域交流の希薄化が人手不足

の原因となっている都市部ではまた違った対策が求められる。そこで、地域の交流を活性化させることで祭りの人手不足を解消し、住民の参加を促した事例からその成功要因を分析する。

また、塚ほか(2010)は祭礼行事において地域内部の担い手と地域外部からの担い手との緩やかな結束によって、地域内部の担い手同士のソーシャルキャピタルが強化されることを示している。OECD(2001)はソーシャルキャピタルを「集団内部或いは間での協働を促進するような、共通の規範、価値観、理解を伴うネットワーク」と定義しており、塚ほかもこの定義を用いて述べている。ソーシャルキャピタルの強化はコミュニティの強化につながる。そのため、この場合は担い手間のコミュニティに限るが、外部から担い手を募ることも地域の交流を活性化させ、都市部における人手不足の解消に効果があると考えられる。そこで、地域外から人手を集めることで祭りの運営を支援している組織の事例において、どのようなアプローチが最適か分析する。

### 3-1 地域住民の参加を促した事例

東京都墨田区立川の三丁目町会は、例年開催している夏祭りにおいて新しいコンテンツとして子ども太鼓を企画し、次世代の青年会の育成を目指す取り組みを行った<sup>4</sup>。

三丁目町会がある東京都墨田区立川という土地は、都営地下鉄の大江戸線と新宿線の森下駅があり、人口高密度が高いことや人口比において若い単身者が占める割合が高いことなど西荻窪と共通する部分が多い。組織自体が亀戸天神社の氏子町会ということもあり、例年神輿や盆踊りなどの夏祭りを開催していた。しかし、新住民と呼ばれる、移り住んできた人々の増加により、交流が希薄化し住民ではあるものの町会に参加しない人が増えてしまった。2002年において町会青年部は5人にまで減少していた。近隣の町会でも人手不足から神輿の売却し、盆踊りを合同開催にすることで人手の確保を行っているような状態だった。

三丁目町会は祭りのみならず町会自体の存続を危ぶみ、直接勧誘することで人員を確保しようとしたが結果は出なかった。そこで祭りに子供が参加できる機会を設けて時期青年会の育成を目指した。そのためのコンテンツとして子ども太鼓が提案された。他にも新しいコンテンツとして盆踊りの楽曲に流行りの曲を取り入れ、オリジナルの振り付けを考案した。まず子供にとって楽しい体験になることを目指した。費用を抑えるため太鼓は地元商店で不要となった空の酒樽を用いた。青年部メンバーが指導者となり祭りの準備期間に数回の練習を行い、祭り当日に披露した。指導を行うにあたり、地域活性と町会の継続が目的であったため、演奏レベルを上げることは目指さなかった。習い事と誤認されないよ

---

<sup>4</sup> 消滅寸前の町会を蘇らせた祭りのチカラ 地域活性のカギとなったもの  
[https://renews.jp/article/978/\(2024/1/25 アクセス\)](https://renews.jp/article/978/(2024/1/25%20アクセス))

うに、だれでも参加しやすい環境が意識され、指導を行う青年部の負担を低くした。

結果として、子供の好奇心を刺激することに成功し、当初 10 人だった参加者は 17 年間で 70 人まで増え、OB,OG を含めた経験者は 100 人以上となった。そして、10 年以上活動を継続したことによって、幼少期に子ども太鼓を体験した世代が高校生となり、太鼓の指導係への立候補があった。また、自分の子供が世話になっているということで、その親からの協力の申し出があり、青年部のメンバーとなった事例もある。

三丁目町会において、地元住民から新規の担い手を獲得できた要因は 3 つあると考える。

一つ目は目標を明確にし、貫いたことである。同町会は人手不足の問題に直面し、「地域活性、町会の存続」を目標に施策を行った。子ども太鼓が地域に受け入れられ始め、参加者が増えていく中で通年での演奏練習を望む意見が出た際も、あくまで「地域活性、町会の存続」が目的であり、習い事とは位置付けが異なるため、回数は増やさなかった。また、20 年近く継続してこの活動を行っていることから目標意識の明確化が行われていることがうかがえる。

二つ目は負担が低い方法を目指したことである。子ども太鼓の調達を地域内に余っていた無料の酒樽で賄うことで金銭的負担を低くしている。また、太鼓の演奏レベルを高めることを目標としないことで、指導者である青年部の負担を低く維持できた。これにより長期的に継続して活動が可能できたのだ。

三つ目は子供に着目した点である。子供の好奇心を刺激することで小さなきっかけから多くの人を集めることができる。子ども太鼓は対象が子供であるが、親が付き添いで訪れたり、祭り当日には演奏を聴き祖父母まで観覧に来たりと子どもの数に対して数倍の集客力が期待できる。

### 3-2 地域外の担い手を集める事例(企業による取り組み)

株式会社オマツリジャパンは「お祭りを盛り上げ、各地の抱える社会課題を解決、希薄になっていく地域コミュニティの改善」を目標とし、自治体向けに観光コンテンツの開発や観光プロモーション、祭りの運営サポートを行っている<sup>5</sup>。会員制サービスとして提供しているオマツリジャパンリーダーズでは、プロモーションや資材のレンタルに加え警備スタッフや運営スタッフの手配も行っており、人手不足解消に貢献している。

優れている点としてスタッフ派遣といった運営自体の支援から、資金調達に関してもサポートが可能な点である。同社が行うスタッフ派遣はあくまで外部の派遣会社経由で行うものであり、祭り運営者は費用の負担が発生する。人手不足と同様に資金難は祭り開催において課題であるが、同社はその問題に対してスポンサーを務める企業とのマッチングを

---

<sup>5</sup> オマツリジャパン：オマツリコネクト

[https://omatsuriconnect.com/\(2024/1/25 アクセス\)](https://omatsuriconnect.com/(2024/1/25 アクセス))

行うオマツリコネクトというサービスも運営している。スタッフ派遣によって人件費の増加を懸念する場合にはサービスを複合的に活用し、人手不足解消と資金調達を行うことが可能である。

### 3-2 地域外の担い手を集める事例(非営利組織による取り組み)

一般社団法人マツリズムは祭りの力で人と町を元気にすることを目標として、地域の祭参加型ツーリズムの企画や祭りの担い手向け課題解決サポート、祭りに関する調査研究などを行っている組織である<sup>6</sup>。同組織が提供するサービスとして「祭ツーリズム」がある。これは、都市部の学生や外国人観光客といった部外者を、地域の祭りの運営側として招待する体験型ツーリズムである。特徴として、既存の祭りに対してただ外部の参加者を募るのではなく、地域と外部者の両者に対して祭りの前から支援を行うことが挙げられる。具体的には、地域に対しては祭りの企画設定から関わりとともにコミュニケーションの機会をとり、快く受け入れられる態勢を整える。外部者に対しては集客をするだけでなく事前学習を行い、地域文化を尊敬する気持ちづくりを行う。これによって地域においてはマンパワーの確保、外部参加への意識変化、祭りの価値の再認識ができ、参加者は非日常や異文化の体験、地域への愛着が生まれる。

同組織による祭り本番前の働きかけは、祭り成功の対して大きな意味があるだろう。卯田ほか(2015)は、佐久市望月の榊祭りの事例において、担い手の参加範囲が拡大したことによって祭の本来の意味への認識が薄まり、祭り進行の妨害に繋がったことを課題として指摘した。このことから祭ツーリズムにおける事前の働きかけは祭り本来の意味を外部者に周知できる点で優れている。また、地域に対しても受け入れ態勢を整える働きかけをするため、知識不足による妨害が発生した場合において、柔軟な対応が期待できる。

## 第4章 考えられる対策の形

都市部における交流の希薄化に起因する祭りの人手不足に対して、外部からの参加者を募集するとともに、地域交流の強化を同時進行することが有効だと考える。外部から参加者を募集することのメリットはノウハウを持つ組織があるため実行に移しやすい点と、担い手のソーシャルキャピタルを強化するため離脱を阻止できる点が挙げられる。しかしデメリットとして、根本原因である地域交流の希薄化には効果が薄い。そこで、長い時間がか

---

<sup>6</sup> マツリズム インフォグラフィック 後編 (マツリズム活動紹介・事例紹介・未来)

[https://www.matsurism.com/news/1452/\(2024/1/25 アクセス\)](https://www.matsurism.com/news/1452/(2024/1/25 アクセス))

かるものの地域での交流を活性化させるような子供をターゲットとした新規コンテンツの導入を並行して行い、長期目線での解決を図ることが効果的だと考える。

外部から参加者を募る際に重要となるのは、参加者に祭りへの理解を深めてもらうことだ。理解を深めるような事前学習や地域住民とのコミュニケーションによって、担い手としての力を十分に引き出すことができるとともに、地域への愛着を抱かせることにつながるため、祭り後の関係にてプラスの効果を発揮すると考える。

新規コンテンツの導入において重要となるのは、地域交流の活性化及び人手不足解消という目的意識を明確化することである。目的意識を明確化することで、コミュニティの強化という時間がかかる取り組みを遂行することができる。ただ新規コンテンツを生み出しただけではその継続は困難である。目的意識を持たないまま住民からの要望を受け入れるばかりになってしまえば、担い手の負担が増えるばかりで担い手の育成の前に限界が来てしまう。

## おわりに

祭り開催において都市部も過疎地域もどちらも人手不足が課題であった。しかし、その原因は異なり、過疎地域は人口減少であるのに対し都市部は交流の減少による地域コミュニティの希薄化であった。そのため過疎地域における人手不足対策は通じない。地域交流の強化に向けた施策が求められている。多くの人が集まり交流が盛んになるようなコンテンツの作成をするとともに、外部のマンパワーを借りるという選択肢を持つことが必要である。そして、短期的なニーズに応えるのではなく、長期的な目標に向かって負担を低くし、継続して活動していくことが重要である。

## 参考資料

after コロナ時代における祭り・イベント関係者の意識・動向調

[https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/pdf/20230803\\_01\\_01.pdf](https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/pdf/20230803_01_01.pdf)(2024/1/25 アクセス)

OECD(2001) : The Well-being of Nations ;The Role of Human and Social Capital.

オマツリジャパン：オマツリコネクト

<https://omatsuriconnect.com/>(2024/1/25 アクセス)

外務省 「にっぽにか 2018 No.24」

[https://web-japan.org/niponica/pdf/niponica24/no24\\_ja.pdf](https://web-japan.org/niponica/pdf/niponica24/no24_ja.pdf)(2024.1.28 アクセス)

国土交通省 都市部、地方部における地域コミュニティの衰退

<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html>(2024/1/25  
アクセス)

消滅寸前の町会を蘇らせた祭りのチカラ 地域活性のカギとなったもの

<https://renews.jp/article/978/>(2024/1/25 アクセス)

杉並区商店街マップ

[https://www.city.suginami.tokyo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/070/973/r4s  
yotengaimap.pdf](https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/070/973/r4s_yotengaimap.pdf)(2024/1/25 アクセス)

杉並区 世帯数及び人口の推移

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/kusei/toukei/toukei/r04/1086678.html>(2024/1/25 アク  
セス)

地域の祭りの社会課題解決能力に着目した地方創生の在り方

[https://www.murc.jp/library/column/sn\\_180501/](https://www.murc.jp/library/column/sn_180501/)(2024/1/25 アクセス)

塚佳織・山本信次(2010年)、「祭礼のソーシャル・キャピタルへの影響：岩手県陸前高田  
市気仙町けんか七夕を事例に」

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp/28/Special\\_Issue/28\\_Special\\_Issue\\_231/\\_pdf/-  
char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp/28/Special_Issue/28_Special_Issue_231/_pdf/-char/ja)(2024/1/25 アクセス)

内閣府 自営業の衰退とその背景

[https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je11/pdf/p03012\\_1.pdf](https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je11/pdf/p03012_1.pdf) (2024/1/25 アクセス)

ねぶた祭、青森県 GDP の1%稼ぐ 全国の祭りの経済効果 5300億円 - 日本経済新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCA14CO50U2A410C2000000/>(2024/1/25 アク  
セス)

前村総司・樽谷幸頼・横山俊祐・徳尾野徹(2013)、「岸和田だんじり祭り」と地域生活に関  
する研究：岸和田市大北町を対象として」、2013年度日本建築学会大会学術講演梗概集、



545-546

<https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/contents/osakacu/kiyo/111G0000009-2012-031.pdf>(2024/1/25 アクセス)

マツリズム インフォグラフィック 後編 (マツリズム活動紹介・事例紹介・未来)  
<https://www.matsurism.com/news/1452/>(2024/1/25 アクセス)

無形民俗文化財の伝統行事、20 県で 60 件休廃止 - 日本経済新聞  
[https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG03H2D\\_T00C17A1000000/](https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG03H2D_T00C17A1000000/)(2024/1/25 アクセス)

柳田國男, 1969, 『柳田國男集第十巻 「日本の祭り」』 筑摩書房

令和 4 年度伝統文化継承事業 群馬県伝統文化調査報告書  
<https://www1.gunmabunkazigyodan.or.jp/kankobutsu>(2024/1/25 アクセス)

楽天インサイト株式会社,2019,「祭りの実態調査 2019 調査報告書」

杉並区商店街マップ  
[https://www.city.suginami.tokyo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/070/973/r4syotengaimap.pdf](https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/070/973/r4syotengaimap.pdf)(2024/1/25 アクセス)

## 調査協力

杉並区西荻一番街商店会役員 柳下匡弘 (2023/10/22 インタビュー)